

平成 29 年度第 3 回古賀市補助金審査委員会 会議録（要点筆記）

【会議の名称】 第 3 回古賀市補助金審査委員会

【日時・場所】 平成 29 年 6 月 23 日（金） 15 時 00 分～17 時 00 分
市役所第 1 庁舎第 2 委員会室

【主な議題】

1. 開会
2. 会議の公開について
3. 委員長あいさつ
4. (1) 実績報告及び評価
 - ①絵画で古賀市を元気にするプロジェクト事業（古賀アートフレンズ 2 5）
 - ②官兵衛 K K（古賀市薦野）版「千里眼 薦野増時」宣伝事業
（薦野の歴史をつなぐ会）
 - ③科楽しよう！サイエンスレンジャーによる科学教室（たけのこ文庫）
5. その他
6. 閉会

【出席委員等の氏名】

委 員：宗像優委員長、今村晃章副委員長、小河武文委員、貞光紀美子委員、山崎あづさ委員

事務局：星野孝一財政課長、内裕治財政係長、田中智実業務主査、大川宗春主任主事

関係課：（文化課）川原幸恵文化振興係長、金子由美子市史編さん準備係長、海老名由美図書館係長、田中音羽主任主事

【庶務担当部署名】

総務部 財政課 財政係

【委員に配布した資料の名称】

資料番号	名 称
2-3	古賀市公募型補助金実績評価表

【会議の内容】

○会議の公開について

合議制の審査となるので、古賀市情報公開条例第 7 条第 4 号の公にすることにより、率直な意見の交換もしくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれがあるものと判断したことにより、非公開とする。

○実績報告及び評価

平成 28 年度実施の 15 事業のうち 3 事業の評価を行う。

①事業名：絵画で古賀市を元気にするプロジェクト事業

実施団体名：古賀アートフレンズ 25

補助実績額：314,000 円（補助申請額：331,000 円）

<質疑応答>

（委員） 担当課において、協賛金獲得のノウハウについての情報収集は行ったか。また、他団体への波及はあったか。

→（文化課） 当該団体へ確認をしたところ、他団体と同じく、個人的なつながりにより協賛をお願いする方法であり、獲得手段に大きな違いは見られなかった。ただし、訪問先を聞き取り、他団体への情報提供を行った。

（委員） 実績報告書において、絵画で古賀市を元気にすることができたとの記載があるが、担当課としてはどう捉えているのか。

→（文化課） 今回は特に、古賀市の児童作品が全国での最優秀賞を受賞したこともあり、新聞に取り上げられたり、市長への表敬訪問を行うなど、市内で話題になった。また、学校の先生からの評判がよい点も評価できる。

（委員） 絵画教室は実施したのか。

→（文化課） 前年度に絵画教室の先生が退会したため、28 年度は、絵画教室は計画段階から除外しており、実施していない。

（委員） 前年度、小学生以外にも対象を広げたらどうかとの意見を付していたが、どう対応したか。

→（文化課） 団体の母体である MOA 美術展が小学生に限定されているので、作品展の対象を広げるのは難しいようだ。ただ、多くの人が集まる場所や色々な施設に展示会場を設けることにより、小さい子どもから大人や高齢者まで幅広い交流が行われている。

（委員） 協賛金収入について、企業協賛金が増えている一方、個人協賛金が企業協賛金と同額分減額されているところに違和感がある。どう捉えたらよいのか。

→（事務局） 団体の決算書では個人協賛金収入は 64 千円となっており、先に補助対象外経費に充当し、その残りを補助金対象収入としているものと考えられる。

→（委員） 収入の充て方に問題はないのか。

→（事務局） 制度上、規定していないため、問題ないを考えるが、今後は検討する余地がある。

（委員） 商品券、入湯券などの支出科目は、消耗品で問題ないか。

→（事務局） 使用目的としては報償費に近いものとする。購入に当たっての科目については、今後整理したい。

<委員のコメント>

(委員) 元々自立度が低かったわけではないが、補助金を受けてよい方向に向かっている印象である。次のステップとして、絵画で古賀市を元気にするという目標に対して、具体的な効果を測る方法を考えたり、よりアート色を強め、文化的な価値を高めるための目標を設定することが必要になってきているのではないか。また、文化的な活動団体が多いため、担当課や市民活動支援センターにおいて、うまくいっている団体のノウハウや成功要因を調査研究して、他の団体に波及できるよう努めるべき。

(委員) 応募者や鑑賞者も増えており、財政面での工夫も見られ、評価できる。絵画で元気にすることを具体的にアピールできる方法を検討していただきたい。

(委員) 事業として規模が拡大傾向で、収入支出の面でも安定しているので、評価できる。今後も規模を維持、向上し、古賀を元気にしていただきたい。

(委員) 古賀市を元気にすることで出発し、これまでの間に成果が上がっているが、より美術的な観点に特化した具体的な目標設定ができるとよい。今までの経験を踏まえ、補助金がなくなった後のことを具体的にイメージして、どう継続していくかを考えてもらいたい。事業の内容としては、努力の跡がみられ、よいものになってきている印象である。

(委員) 組織、活動もしっかりしており、協賛金も増えて自立が見込まれ、委員会からの意見に対しても丁寧に対応されており、全体としてはよい印象を持っている。今後は、より高い目標を持ち、自立へのイメージを持って事業に取り組んでいただきたい。

②事業名：官兵衛KK（古賀市薦野）版「千里眼 薦野増時」宣伝事業
実施団体名：薦野の歴史をつなぐ会
補助実績額：195,000円（補助申請額：281,000円）

<質疑応答>

(委員) 野外活動を行っているようだが、保険などに加入していないのか。

→(文化課) 団体の決算等にも保険料は見当たらないため、保険には加入していないものと考えられる。

→(委員) 保険に加入していない場合に、もしものことがあったらどうするのか。

→(事務局) 行政区などの後援があるため、公民館活動等として、コミュニティ活動保険が適用できる可能性がある。

(委員) パンフレットの製作を断念したようだが、どの程度まで進捗していたのか。

→(文化課) 踏み込んだところの内容について、会員同士の意見のとりまとめがうまくいかず、断念したようだ。

(委員) 会員の拡大は図られたか。

→(文化課) 色々とは声かけは行ったが、若い人の獲得はできておらず、会員は減少傾向にあるようだ。団体としても危機感を持っている。

(委員) 今後の活動方針は、どのように考えているのか。

→(文化課) 平成29年度は、イベントの回数を1回に減らし、会員の勉強会を拡充、強化する予定である。補助金を受けた3年間で、イベントの実施及び看板や標識を設置することができた。今年度1年間は、薦野の自然や歴史の魅力や素晴らしさをより的確に広く伝えるための知識の習得に力を入れ、来年度以降の新たな活動へとつなげていきたいと考えている。また、小野校区コミュニティとの連携をめざし、同じ校区内にある船原古墳が昨年、国史跡の指定を受けたこともあり、船原古墳と薦野を併せた観光ガイドとして、活動の幅を広げていくことも視野に入れているようだ。

(委員) イベントへの参加費について、どう考えているのか。

→(文化課) 薦野を知ってもらうことに重点を置いていたため、参加費は取らない方針であった。今後の事業展開によっては、参加費を取ることも検討したいと考えているようだ。

(委員) 講師手土産代が消耗品として支出されているが、問題はないのか。また、謝礼に上乘せして渡したのであれば、不適當なのではないか。

→(事務局) 消耗品として支出することについては、問題ないとする。また、市であれば謝礼に上乘せすることは認めていないが、補助金の使途として明確に規制していないため、グレーな部分がある。ただし、講師に対する謝礼とは、別のものである可能性があるため、団体に使途を確認したい。

<委員のコメント>

(委員) 年々、進化している印象で、真摯に事業に取り組まれていると感じる。地元の人が薦野に愛着が持てたことよりも、区域外や市外の人が薦野に来て薦野のよさや歴史に触れることができたことが成果だと考える。地元で会員をどんどん増やすというのは難しいと思うので、薦野ファンクラブのような形で薦野のことを好きな人を増やしていくことを考えたらいいのではないか。今年度は、活動に一息入れることは理解できるので、今後は、興味のある人を外から連れて来て、少しずつ深く知ってもらうような戦略を立ててもよいのではないか。

(委員) 市の補助金があったから実施できた事業であるとする。補助金終了後、イベントを減らし、会員の勉強をしていくだけになるのでは、物足りなく感じる。3年間の活動のまとめとなる冊子の製作ができなかったことは、非常に残念。補助金の成果を形にするために、冊子作りにはぜひ取り組んでいただきたい。

(委員) 実績を見る限り、熱意を持って取り組んでいる印象である。今後は、収入の手立てがなく、勉強会が中心になるとのことだが、3年間で培ったノウハウを活用して、市内外への薦野のPRを続けていただきたい。

(委員) 3年間を通してイベントを着実に実施できており、評価できる。補助金が終了し、収入がなくなると勉強会中心になるのであれば、スタートに戻ってしまうことになりか

ねない。今後は、3年間の成果を外へアピールできるよう、取り組んでいただきたい。

(委員) 3年間、地道に活動して、成果も上がってきたところで、補助金は3年でなくなることがわかっていながら、今後の活動が見通せなかったのは残念。今後は、活動の範囲を広げたり、これまでの経験を生かして薦野をアピールする活動を続けていただきたい。

→(文化課) 平成29年度は充電期間として、勉強会中心の活動となるものの、平成30年度以降の活動としては、新たな展開を検討しているようだ。知識を習得することで活動の幅を広げることにつながり、補助を受けた3年間で色々な団体との連携ができたこともあり、更なる活動の強化が期待される。

(委員) 歴史をテーマにした団体で、より知識を深めようと、充電期間を持つようとしているのは問題ない。歴史が団体の柱になっているが、地域づくりの一環として機能していることに意義がある。この団体が主催でなくても、色々な団体がつながり、地域全体が盛り上がるのであればよいという発想で構わないと思う。担当課だけでなく、移住、定住の視点も加えて、市の別の部署を巻き込んだ活動にしていってもよいのではないかと。

③事業名：科楽しよう！サイエンスレンジャーによる科学教室

実施団体名：たけのこ文庫

補助実績額：61,000円（補助申請額：61,000円）

<質疑応答>

(委員) 千鳥小学校以外から何人参加したのか。

→(文化課) 人数は把握していないが、青柳小学校、舞の里小学校以外は参加している。

(委員) 30名の定員に対し、参加者が29名となっているが、応募の状況はどうか。

→(文化課) 確認できていない。

→(委員) 応募者が多いのであれば、参加費を増やすことも検討できるのではないかと。

<委員のコメント>

(委員) 前回うまくいかなかった点の改善がみられ、きちんと取り組んでいる印象。原材料費と参加費とのバランスについては、子どもだから100円しか取れないということではなく、補助金を受けている期間でテストマーケティングができればよかったと思う。企画内容的には難しいことに挑戦しているようなので、今後の価格の面についても挑戦していただきたい。

(委員) 子ども達に体験させることはよいことだと思うので、材料代に見合った参加費を検討したり、参加者を広げることにしても取り組んでいただきたい。

(委員) アンケートをみても子ども達が満足する事業になっており、評価できる。収支のバランスは、材料代がかからない内容にするか、参加費を上げることによって改善で

きると思うので、継続して活動できるよう取り組んでいただきたい。

(委員) 前年度うまくいかなかった点に対応しており、イベントとしては成功といえるのではないかと。今後は経験を生かして、先生に頼らずスタッフでやってみるなどして事業を継続していただきたい。

(委員) 活動の結果をみても一生懸命取り組まれているのが分かる。前年度の反省を生かしている点や委員会からの意見にも対応している点が評価できる。また、アンケートの結果からは、子ども達だけでなく保護者からもよい評価を得ているようだ。当日天候が優れなかったため、後日撮影会を実施し、フォローアップできている点も評価できる。補助金が無くなった後も継続して事業を実施していただきたい。

○その他

(事務局) 古賀紙芝居サークル「カチカチ会」の大型紙芝居巡回上演企画について、団体から申請取下げの申し出があり、受理した上、交付決定を取消した。取下げの理由は、メインの絵描き兼台本作家の病気により、事業実施が見込めなくなったためである。

(委員長) 今後のスケジュール等を確認して終了する。事務局より説明願う。

(事務局) 今後は、8月以降、月1回程度のペースで委員会を開催する予定である。改めて日程を調整させていただく。

(委員長) 以上をもって、平成29年度第3回補助金審査委員会を終了する。

以上